

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	A+B 結果 (%)	R4 前期 (%)	目標 指数 (%)	所見（教職員、保護者） ○成果、良好 △課題	改善策・向上策	
確かな学力	1 「引き出す教育」「楽しむ教育」の推進	①主体的な学びの視点に立つ授業改善	子どもたちが授業に主体的に取り組むように努めた。（導入、発問、振り返り等）	教職員	100	87	90	<p>○天気は左右される理科の観察にはタブレットが大変有効だった。</p> <p>○ICTを年間通して積極的に使うことができた。</p> <p>○帰りの会で今日のきらきらさんとして良かったところを伝えている。</p> <p>△具体的に、どんな姿が主体性があるとするか、子どもと共有した方がよい。</p> <p>△学級内の学力差が激しく、出来る子用に応用問題を作成しておくことよい。</p> <p>△家庭で読書に取り組んでもらうためにはどうしたらよいか。</p> <p>△一方的な指示にすることがあり、子どもたち主体となるような授業に取り組んで行きたい。</p> <p>△ICTの効果的な使い方を掴めなかったため、もっとよい使い方がないか追求していきたい。</p> <p>△ICTの活用はややもすると、教師主導型になりがちなので、児童主体になるような工夫をする必要がある。</p> <p>△デジタル教科書は、算数や国語では必修と感じている。端末の容量的にタブレットには入らない隔年もあり、ウェブクラウドのデジタル教科書を、R5年度に向けて要求している。</p>	<p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心を高め見通しのもてる課題設定、自己の変容がわかる振り返り、わかりやすく関心をもてる発問の仕方、見やすいノート指導を工夫する。 ・国語で学習した話し合い活動を応用して、他の教科でも実践し、筋道を立てて説明する力を高める。 ・授業の中で「わかる」となる瞬間ができるよう、スモールステップで進める。 ・主体的な学習として、調べ学習、単元のまとめ「プレゼンづくり」、友達への問題づくりなどがあげられるが、いろいろな課題や活動を研究していきたい。 ・協働的な学習での活用を考えていきたい。 <p>【基礎・基本的な学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習は本来、探求的なものであり、基礎・基本的な学力の定着には直につながらないため、具体的取組から外す。 ・家庭学習の設定時間は、今後も継続して意識させるとよい。 ・校内学力テストは年3回（7・12・2月）2教科にし、家庭との連携を継続し、学力向上を目指す。 ・学力向上週間を、できるだけ中学校のテスト前部活停止期間に合わせる。 ・授業中や授業の終わりに、「～をまとめてみよう」「～を調べてみるといいね」と一声掛け、興味関心のあることを進んで調べる習慣を身に付けさせたい。 ・単元テスト前に、家庭学習としてeライブラリを取り組ませ、デジタル確認テストをしたが、効果を感じた。目標を持たせて取り組みれば、デジタルドリルもそれなりの効果があるように感じる。 <p>【読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書月間以外にも図書委員会のイベントなどを計画実施し、図書室の利用を促す。 ・読書貯金の記録の仕方をより簡単なものに変え（低学年：本を撮影、高学年：エクセルに題名を入力など）、保護者にも読書の様子が伝わるよう懇談会などで知らせる。 ・定期的に読書への呼びかけを行う。 ・学年ごとのおすすめの図書を進んで読むよう指導する。 ・読書貯金をグラフなどを使って視覚的に表し、読書への関心を高める。 ・多読者の表彰を継続していく。 <p>・デジタルコンテンツを活用して、識字や書字を苦手としている児童に対して、有効な手立てをとっていく。</p>	
			授業に主体的に取り組んだ	児童	100	100	90			
			学校は子どもたちが授業に主体的に取り組めるよう工夫している	保護者	99	97	90			
		②学び合い、わかる授業づくり	わかる授業に努めた	教職員	100	100	90			
			個のニーズに応じた指導を常に心がけた	教職員	100	100	90			
			日々の授業がわかった。	児童	100	98	90			
		③ICTの活用	子どもたちは授業がわかっていて。	保護者	94	90	90			
			ICTを効果的に活用し、理解が深まる学習、協働的な学習を進めた。	教職員	100	87	100			
			タブレットを使って楽しく学習できた。	児童	100	100	90			
		2 基礎・基本的な学力の定着	④自主学習「い〜い自学」の活用 設定時間の意識化	家庭での学習の指導を継続的に行った。（設定時間、自学のしかた等）	教職員	100	85			80
				家庭で時間が余った時、自主学習に取り組んだ。	児童	69	66			80
				子どもたちは自主学習に取り組んでいた。	保護者	75	76			80
	3 読書習慣の育成	⑤読書に親しむための取組	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。	教職員	100	85	80			
			読書に継続的に取り組むことができた。	児童	82	76	80			
			家庭や学校で読書をしている。	保護者	58	52	80			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	A+B 結果 (%)	R4 前期 (%)	目標 指数 (%)	所見(教職員、保護者) ○成果、良好 △課題	改善策・向上策
豊かな心	1 思いやりの心の育成	⑥あいさつの習慣化推進	児童に対して自分から進んで誰にでもあいさつするように指導を行った。	教職員	100	100	90	<p>○委員会であいさつカードの取り組みを行った。最初に名前を言ってあいさつをするようにしたこと、相手の顔を見てあいさつする児童が増えた。</p> <p>△自分の中では優しい言い方をしているつもりであるが、相手からするとそうとは思わない場合がある。</p> <p>△廊下を走る児童がいる。「やり直し」の声かけを徹底する。</p> <p>□学校生活のあらゆる場で、気がかりな場面を見つけたら、その都度、児童の話聞き、思いやりのある行動について、指導していくことが大切。</p> <p>□縦割りでの活動ができるようになると、児童の楽しみも増していくと思う。</p> <p>□児童一人ひとりの良さを認め、誉めることが大切。</p> <p>□コロナなどの感染症対策による制限が減ると楽しいことも増えると思う。</p> <p>□ハートふれあい週間だけでなく、日々、児童を観察し、コミュニケーションを心がける。</p> <p>□先生と子どもが話す機会の場が多かったり、子どもを見る時間に余裕ができるとさらに児童理解につながると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のあらゆる場で、気がかりな場面を見つけたら、その都度、児童の話聞き、思いやりのある行動について、指導していくことが大切。 ・縦割りでの活動ができるようになると、児童の楽しみも増していくと思う。 ・児童一人ひとりの良さを認め、誉めることが大切。 ・コロナなどの感染症対策による制限が減ると楽しいことも増えると思う。 ・ハートふれあい週間だけでなく、日々、児童を観察し、コミュニケーションを心がける。 ・先生と子どもが話す機会の場が多かったり、子どもを見る時間に余裕ができるとさらに児童理解につながると思う。 ・休み時間はトイレを済ませ、次の学習の準備をするよう習慣づける。 ・全校集会で、きまりを守ること、特に「廊下を走らない」ことについて継続して指導する。 ・道徳の時間、思いやりや親切について、道徳的心情が深まるよう指導を工夫する。 ・イベントを行っていき、主体性をもたせるとともに、学校生活が楽しいと感じられるようにしたい。 ・引き続き、教員全体で情報共有を行う。 ・自己肯定感を高められる言葉かけを行う。 ・SSTを毎週月曜日の朝学習の時間に行い、気持ちよく1週間学校生活が送れるようにしていく。
			学校や家庭・地域で「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつを自分から行った。	児童	96	98	80		
			子どもたちは、家庭で自分から「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」等のあいさつをしていた。	保護者	82	79	80		
		⑦規則を尊重する態度の育成	時間を守って行動し、廊下や階段を走らないように指導した。	教職員	100	100	90		
			時間を守って行動し、廊下を走らないように気をつけた。	児童	94	95	90		
			相手と子どもが話す機会の場が多かったり、子どもを見る時間に余裕ができるとさらに児童理解につながると思う。	教職員	100	100	90		
		⑧思いやりの心	相手を思いやり親切にする指導を継続して行った	教職員	100	100	90		
			相手を思いやり親切にしている	児童	99	98	90		
			子どもたちは相手を思いやり、親切にしている	保護者	88	86	90		
	2 いじめ不登校の防止	⑨楽しい学校生活	学校生活が楽しくなるよう努めている	教職員	100	100	90		
			学校に来るのが楽しい	児童	91	94	90		
			子どもたちは学校へ行くのが楽しいと思っている	保護者	88	88	90		
		⑩児童理解	児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100		
			自尊感情を高める指導に努めた。	教職員	100	100	90		
			学校の先生は、自分の話を聞いてくれる。	児童	99	94	100		
学校では、子どもの相談に応じたり、「ハートふれあい週間」による面談等で、児童理解に努めている。			保護者	93	93	90			
3 道徳教育の充実を人権意識の向上		⑪道徳科の授業向上	児童が意欲的に考え、話し合える授業づくりに努めた。	教職員	100	100	90		
	道徳の授業で、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、考えを深めた。		児童	96	100	90			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	A+B 結果 (%)	R4 前期 (%)	目標 指数 (%)	所見(教職員、保護者) ○成果、良好 △課題	改善策・向上策
健やかな体	1 望ましい生活習慣の育成	⑫早寝・早起き・朝ごはんの指導	早寝・早起き・朝ごはんの指導を継続して行う	教職員	100	100	90	○ほとんどの児童が朝ごはんをしっかり食べてきている。 ○給食便り、保健便り、J Aの月間紙を活用している。 ○毎朝の健康観察で、就寝時間や朝ごはんを確認している。 △指導は行なっているが、実際にスマートルールを守れているか把握できていない。 △体力向上のめあてが具体的にどのようなものなのか、子供が意識して取り組んでいるのか確認不足でCにした。	・なぜ規則正しい生活が大切なのか児童に継続的に指導していく。 ・スマートルール、県からの資料をただ配布せず、その都度指導していくことの徹底を図る。 ・アンケート結果を保護者に伝え、家庭での改善策を考えてもらう。 ・今年度もひまわり教室を開く。(中・高学年) ・普段の体育の授業から長距離走やシャトルランなど持久力を高める運動を多く取り入れる。 ・遊ぶことで体力の向上につながっていくので、休み時間など外に出て遊ぶように声かけをしていく。
			早寝・早起き・朝ごはんを毎日取り組む	児童	96	98	80		
			子どもたちは早寝・早起き・朝ごはんを毎日取り組んでいる	保護者	99	98	80		
		⑬ゲーム、インターネット利用時のルール	スマートルールや家庭読書の日をもとに指導している。	教職員	100	87	80		
			ゲーム、インターネットはルールを守って、見たり使ったりしている。	児童	96	91	80		
			家庭のルールをつくり、守るよう取り組んでいる。	保護者	90	83	80		
	2 主体的に取り組む運動習慣の育成	⑭主体的に取り組む運動習慣の育成	授業や業間体育で記録が伸びよう励ましながら指導した。	教職員	100	100	90		
			授業や業間体育で記録が伸びよう努めた。	児童	99	95	90		
			学校は、子どもたちがめあてをもって体力向上に取り組めるよう努めている。	保護者	90	93	90		
	3 安全教育の推進	⑮危機意識・判断力の向上	日頃より、感染症防止や交通安全など安全教育を行っている	教職員	100	100	90		
			感染症防止や交通安全などに気をつけている。	児童	99	95	90		
	信頼される学校	1 ふるさと学習、地域教育力の活用推進	⑯伊井っ子SDGsの推進	SDGsに関する学習や活動を積極的に進めた。	教職員	100	100	90	
自分ができることに進んで取り組んだ。				児童	94	100	90		
子どもたちは、自分ができることに進んで取り組んでいた。				保護者	96	91	90		
2 地域への情報発信		⑰地域との連携	地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	教職員	100	100	90		
			地域の行事に参加したり、地域の人とふれあったりすることは楽しい。	児童	100	100	90		
			学校は、地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	保護者	97	90	90		
⑱学習や生活の様子を伝えるための工夫		お便りやホームページなどを通して学習や生活の様子を伝えている。	教職員	100	100	90			
		お便りやホームページなどを通して子どもたちの学習や生活の様子わかる。	保護者	97	97	90			